

令和6年度第1回尼崎市文化財保護審議会会議録要旨

1 日 時

令和6年7月4日(木) 午前10時00分～12時00分

2 場 所

尼崎市立歴史博物館3階講座室

3 出席委員

委 員	大 場 修
委 員	伊 達 仁 美
委 員	長 谷 洋 一
委 員	川 口 宏 海
委 員	綿 貫 友 子

4 出席した事務局職員

社会教育部長	橋 本 貴 宗
歴史博物館長	門 田 真由美
歴史博物館文化財担当係長	高 梨 政 大
歴史博物館文化財担当学芸員	井 上 亮
歴史博物館文化財担当学芸員	新 里 遥
歴史博物館文化財担当学芸員	楞 野 一 裕

5 開 会

司会進行 門田館長

6 挨拶

橋本社会教育部長

7 諮 問

議事に先立ち、諮問書が橋本社会教育部長から大場委員長に渡された。

8 議 事 等

議事1 「令和6年度尼崎市指定文化財候補物件について」

- ・今年度の指定文化財候補として「六瀬頼連軍忠状」を事務局から提案し、概要説明を行った。

(質疑等)

- ・文書の日付が抜けているが、写し(猪名川町所在の「平尾家文書」)の正本という説明があったが、オリジナルなのか控え的な文書なのか。
- ・日付が抜けていることに関して、中世の文書では日付のないものがよくある。本文と、最後の「一見しおわんぬ」の筆跡や花押の形状などから後世の写しではなくて、同時代に作成された正本であると判断している。
- ・提出して戻ってきたそのものであるということか。
- ・はい。
- ・資料2頁上から、8行目「常光寺」と下から5行目「浄光寺」は別の寺なのか。
- ・地名としては「常」の字、寺院としては「浄」の字。この合戦の記述がある『太平記』には「浄」の字で出てくる。地名か、寺院名か判別がつきにくいですが、こ

の文書では、「常」の字である。資料の上段では文書の説明のため「常」の字、下段は、『太平記』に基づく合戦の概要を説明しているため「浄」の字を使った。中世の場合は、音が通じると、別の漢字をあてることがあるので、どちらが正しい、正しくないということはない。地名なのか寺院名なのか検討する必要がある。

以上のことを踏まえ、今年度の指定候補物件として事務局が提案した「六瀬頼連軍忠状」について、委員長が候補物件として審議を進めていくことについて諮ったところ、異議がなく、全委員の了承が得られた。次回、第2回審議会で調査・審議を進めていくこととなった。

8 報 告

(1) 尼崎市文化財保存活用地域計画について

- ・計画作成の進捗状況ほか、今年度の作成スケジュールについて説明。
- ・骨子案について意見聴取を行った。

(2) 令和5年度尼崎市指定文化財の指定について

- ・令和5年度文化財保護審議会で審議をおこなった「東大寺油納所枡注文」が、令和6年3月27日付で尼崎市指定文化財に指定されたことを報告した。
- ・今年度新たに登録された国登録有形文化財3件（旧尼崎市立高等女学校校舎・校門、西正寺本堂）についての報告を行った。

(3) 前ユニチカ記念館保存活用の現状について

- ・旧尼崎紡績本社事務所(前ユニチカ記念館)の保存・活用について、庁内でプロジェクト会議を設け検討を進めており、令和5年度の取組、保存・活用に関する指針について報告を行った。

9 そ の 他

(1) 学芸員（日本民俗学）の採用について

(2) 令和6年度尼崎市文化財保護審議会の予定について

第2回・第3回の審議会の日程については、事務局で委員の日程調整を行う。

以 上